

対象年度		令和 7年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート													
事務事業名		ごみ減量化対策事業						予算事業名		ごみ減量化対策事業費							
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	結城市ごみ減量化器具購入補助金交付要項							
				04	02	02	21	経常経費									
総合計画体系		住みたい・住み続けたい 安全・快適な都市を目指そう						事業の区分		主要事業							
		地球環境にやさしいまちづくり															
		循環型社会の形成						担当課係等		生活環境課							
事業期間		継続 (平成 4年度～令和 9年度)															
【めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】									
市民一人一人が、廃棄物の排出抑制を企図し、ごみの減量化に取り組む								・全国的に多くの自治体がごみ減量化器具の補助事業を実施している									
【手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)】								【対象 (だれに対して・何に対して行うのか)】									
・生ごみ減量化器具購入費補助制度の制定 ・環境講座、ごみの出し方説明会等の開催 ・3Rポスターのとりまとめ								市民									
								【事業をとりまく環境の変化】									
								脱炭素社会の実現のため、ごみ減量は必要不可欠である。一層、ごみ減量化に取り組んでいく必要がある。									
【令和 7年度 事業内容】				【令和 8年度 事業内容】				【令和 9年度 事業内容】									
・生ごみ減量化器具購入費補助制度の制定 ・環境講座、ごみの出し方説明会等の開催 ・3Rポスターのとりまとめ				・生ごみ減量化器具購入費補助制度の制定 ・環境講座、ごみの出し方説明会等の開催 ・3Rポスターのとりまとめ				・生ごみ減量化器具購入費補助制度の制定 ・環境講座、ごみの出し方説明会等の開催 ・3Rポスターのとりまとめ									
■事業費																	
				R05年度		R06年度											
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0										
	県		支	出	金	0	0										
	地		方		債	0	0										
	そ		の		他	0	0										
	一		般	財	源	200	207										
歳 入 計 (千 円)				200		207											
歳 出 内 訳	節 (番 号 + 名 称)			金額 (千円)		金額 (千円)											
	10 需用費			2		4											
	11 役務費			0		3											
	18 負担金補助及び交付金			198		200											
歳 出 計 (千 円) (A)				200		207											
伸 び 率 (%)						3.50											
備 考	総合計画 77ページ 予算書 122ページ																

令和 5年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R05年度	R06年度	R07年度
活動 指標	生ごみ減量化器具購入費補助制度の制定	件	目標	1.00	1.00	1.00
	補助金交付要項の制定		実績	1.00	0.00	0.00
	市民を対象にした環境講座の開催	回	目標	1.00	1.00	1.00
	環境に関する勉強会を開催し、環境意識の向上を目指す		実績	1.00	0.00	0.00
成果 指標	設置補助件数	件	目標	10.00	10.00	10.00
	年間補助件数		実績	11.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	一般廃棄物の処理は市の責務であり、市はその発生抑制について対策を講じる必要がある。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	一般廃棄物の処理は市の責務であり、市はその発生抑制について対策を講じる必要がある。
	手段の妥当性	A 妥当である	ごみ減量化は、市民の協力がなければ効果がないことから、継続的に啓発をしていく必要がある。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	多くの自治体のごみ減量化器具に対する補助制度を実施しており、経費も最小限に抑えている。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	全市民を対象とした事業であり、隔たりはない。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	ごみ減量化器具の補助申請は多く、予算が年度途中で無くなってしまっている。引き続き継続して周知をしていく。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	ごみは減少傾向にあるが、人口減等も要因と考えられる。ごみ減量化器具補助金については、普及が図れている。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
コロナ禍以降、ごみの排出量は減少傾向にあり、市民一人当たりの排出量も平成7年度の資源物分別収集開始当初まで減少してきている。しかしながら、県内では下位の方であることから、一層の減量化を進める必要がある。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
・今後取り組まなければならない廃プラスチック類の分別（資源物分別収集事業）、指定袋制度（廃棄物処理対策事業）等の施策と連携し、ごみ減量化を図る。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	方向性の具体的内容 国の動向に注視しながら、広報紙等への掲載、講座の開催を通して、ごみ減量化に対する市民の理解を深める。 講座については、市民の関心が高く、ごみ減量化に対する意識づけの効果の高い内容にする。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり